

特集◆◇◆◇◆◇「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆① 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るために救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「救命いかだ」の儀装品 使用目的別に分類すると4種類に分類される。

①浸水から漂流開始までに使用するもの

②漂流中の体力を保持するためのもの

—重要な儀装品「生存指導書」—

遭難者を元気づけるため、遭難救助実績とか生きのびるための、いろいろな参考事項が記載されている

③いかだの性能を維持するためのもの

④遭難者から救助者への信号用具

救助される側の活動

現在の救助方法では、救助される者が無理して移動しないで、できる限り遭難現場付近にとどまっているか、遭難現場から風や潮流の方向に、一方向にのみ航海していることが重要となる。遭難して船から脱出するときは、その遭難現場から救助を求める電波を発しているから、この電波を受けとった近くの船や、陸上の救助機関は、当時の天候、風力、現場の潮流などを考え、遭難現場付近に達する経過時間とともにらみあわせながら、捜索の海面を想定して、救助のために接近してくる。そしていろいろな漂流物を遭難した船の足がかりとしながら救助する。救助される者が、救助する側の予想に反してみだりに航海すると、救助されることが難しいケースもある。

サバイバルで生還するための知識と技術 -シーアンカー-

シーアンカーは、波やうねりに対して救命艇やゴムボートが十分たえることを目的としているが、風で流されることを少なくするためのもの。シーアンカーは、もつれたりしないで、最大限の抵抗が働くように監視しよう。もしヒモが切れて失ったような場合は、早速新しいものととりかえるか、バケツを代用する。また、キャンバスでこれに近いものを作ることなどして、絶えず流しておこう。

「海員だより」